

# Q 1 シックハウス問題とは どんなものですか

住宅建材の内装材や塗料、接着剤などに含まれる化学物質が原因とされる健康被害のことでシックハウス症候群とも呼ばれています。

新築やリフォームした住宅に入居した人が、目がチカチカする、喉が痛い、頭痛がする、アレルギー症状がでるなど、体調の変化を覚えることが問題となっています。化学物質による室内空気汚染等が原因とされていますが、因果関係がまだ解明されていない部分もあり、また様々な複合要因が考えられることから学術的な定義はまだされていません。厚生労働省ではシックハウスなどについて表1のような暫定的な説明をしています。

住宅の気密性能の向上やライフスタイルの変化もシックハウスの要因との指摘があります。

近年の住宅は気密性が高まっているため、十分に換気をしないと室内空気中の化学物質はその濃度を高めることがあります。さらに、四季を通じたエアコンの使用によって窓を締め切る時間が延びていることなども室内空気環境を悪化させる要因と言えます。

シックハウスと化学物質過敏症は厳密には同じではありません。

また、シックハウス症候群と並んで「化学物質過敏症」という言葉もよく使われ、この2つを同じ意味にとらえている方が多いようですが、厳密には化学物質過敏症は住宅以外の自然界に存在する有機物質でも発症するもので、シックハウス症候群のみを指すものではありません。シックハウス症候群はある建物の中にいる時に特に症状がでますが、化学物質過敏症は化学物質が体内に蓄積された結果、その後の生活でたばこの煙や香水の臭いなど非常に微量な化学物質に接触しても体調が悪くなるなど、住宅以外の場所でも起こるといわれています(表2)。

表1 シックハウス/  
シックハウス症候群/  
シックビルディング症候群

住宅の高気密化や化学物質を放散する建材・内装材の使用等により、新築・改築後の住宅やビルにおいて、化学物質による室内空気汚染等により、居住者の様々な体調不良が生じている状態が、数多く報告されている。症状が多様で、症状発生の仕組みをはじめ、未解明な部分が多く、また様々な複合要因が考えられることから、シックハウス症候群と呼ばれる。(厚生労働省 シックハウス問題に関する検討会 報告書)

表2 化学物質過敏症

最初にある程度の量の化学物質に曝露されるか、あるいは低濃度の化学物質に長期間反復曝露されると、一旦過敏症になると、その後極めて微量の同系統の化学物質に対しても過敏症状を来すものがあり、化学物質過敏症と呼ばれている。化学物質との因果関係や発生機序については未解明な部分が多く、今後の研究の発展が期待される。

(厚生化学研究「化学物質過敏症に関する研究(主任研究員石川哲)」)